

【成果情報名】 水稻奨励品種「にこまる」の登熟期間の高温条件における玄米品質

【要約】 「にこまる」は登熟期間の高温条件下においても白未熟粒の発生が少なく「ヒノヒカリ」に比べ品質が優れる。背白粒の発生は出穂後 20 日間の平均気温が 27℃を超えると増加する。

【キーワード】 イネ、にこまる、高温、品質、背白粒

【担当】 総合農林試験場・作物園芸部・作物科

【連絡先】 電話 0957-26-3330、電子メール j-koga@pref.nagasaki.lg.jp

【区分】 農産

【分類】 指導

【背景・ねらい】

近年、気候温暖化にともない水稻の登熟期の高温による玄米品質の低下が問題になっている。そこで水稻新奨励品種「にこまる」について登熟期間の気温と玄米品質との関係を明らかにし、高温条件下での高品質米生産技術の開発に資する。

【成果の内容・特徴】

1. 登熟期間が高温であった気象条件下でも、「にこまる」は「ヒノヒカリ」に比べ同じ移植時期、同じ出穂期で白未熟粒の発生が少なく、品質は「ヒノヒカリ」より優れる。(図 1)。
2. 「にこまる」は「ヒノヒカリ」に比べ背白粒の発生が少なく「ヒノヒカリ」は出穂後 20 日間の平均気温が 26.5℃を超えると背白粒の発生が増加するが、「にこまる」は 27℃を超えると増加する。(図 2)。
3. 「にこまる」は「ヒノヒカリ」の品質低下が起こる高温条件でも、品質の低下が少ない。

【成果の活用面・留意点】

1. 移植時期の適期を判断する基礎資料として活用する。
2. 移植時期別試験は単年度の試験である。

[具体的データ]

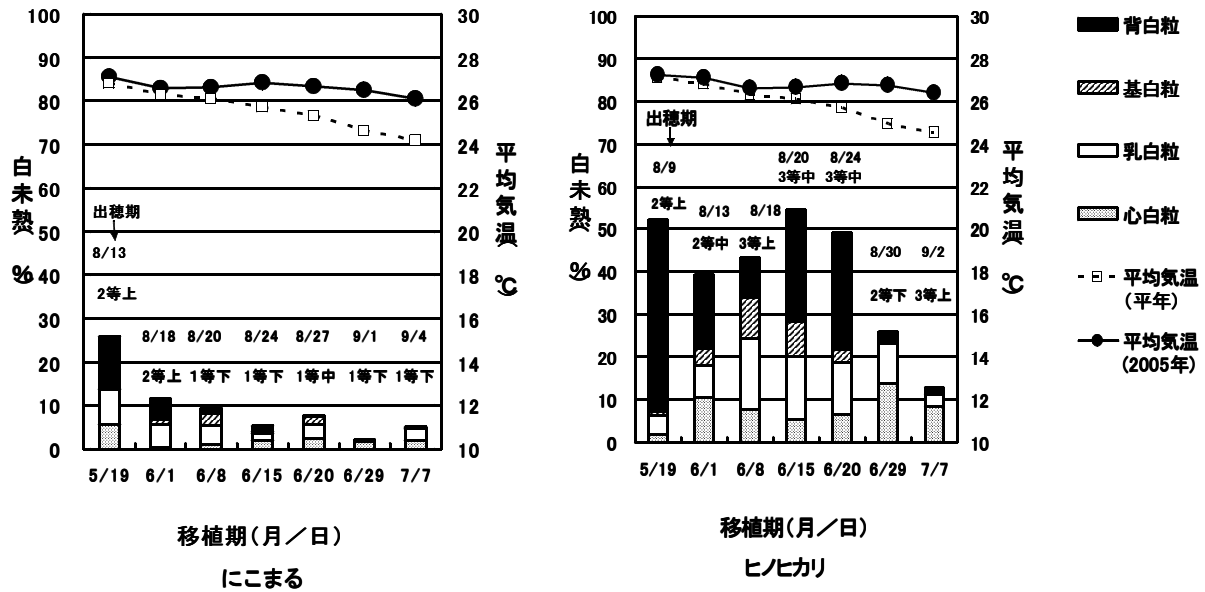


図1 移植時期と白未熟粒（背白・基白・乳白・心白）の発生(2005年)

注1) 平均気温は出穂後20日間の平均気温

2) 標肥は基肥5+穂肥3(Nkg/10a)

3) 穂肥は出穂前18~20日頃に施肥

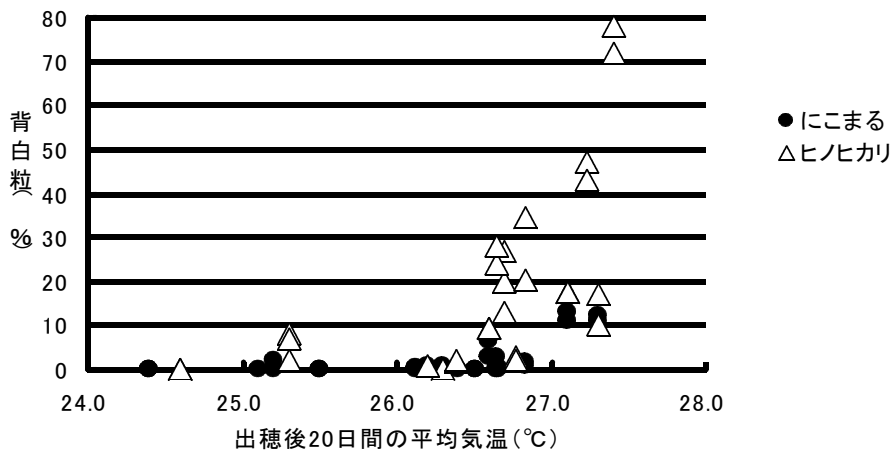


図2 出穂後20日間の平均気温と背白粒の発生程度(2002~2005年)

[その他]

研究課題名：稲・麦・大豆奨励品種決定調査、水稻新奨励品種「にこまる（西海250号）」の栽培技術確立

予算区分：県単

研究期間：2002~2005年度

研究担当者：古賀潤弥、大脇淳一、下山伸幸、土谷大輔、佐田利行、岳田司